



都の花「さくら」

今年3月4日に出された気象庁恒例の第1回「桜の開花予想」によると、東京は3月25日頃ということ、例年



題字揮毫・故 瀬島龍三氏

第 13 号

財団法人 大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議会

〒105-0014 港区芝2-5-19
TAビル4階

電話 03 (5730) 0421
FAX 03 (5730) 0422

<http://homepage2.nifty.com/ireikyou>

振替口座 00140-6-334930

編集人 飯田正能

発行人 柚木文夫

印刷所 ヨシダ印刷株式会社

目次

| | |
|---------------------|----|
| 都の花「さくら」 | 1 |
| 南部利昭宮司を偲ぶ | 3 |
| 「北方領土の日」に思う | 4 |
| 協議会参加団体の紹介 | 5 |
| 「全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑奉賛会」 | 9 |
| 平成20年度「シベリア鎮魂慰霊祭」 | 11 |
| 遺烈 | 15 |
| 事務局からの報告等 | 16 |
| 協議会参加各団体の本年度慰霊行事予定 | 16 |

並みかや遅いということである。(因みに東京の開花宣言は靖國神社境内にある3本の標本木・ソメイヨシノザクラ数輪の開花が基準になっているが、昨年は3月22日、一昨年は3月20日であった。)これは、九州から本州にかけての太平洋沿岸全域に言えること、例えば、九州では、一番早いのが中部の熊本で3月15日、次いで北部の福岡が3月17日、南部の鹿児島は3月22日で一番遅い。緯度的には逆転現象である。暖冬だからとか、温度が高いからというだけで桜の開花が早いとは限らないのである。

桜の開花は、梅のそれとは違い、寒暖の差が必要である。暖かい日が続いた後に寒風の襲来、そしてまた温暖といった三寒四温が繰り返された後に一気に開花するのである。桜には「休眠打破」が必要だと言われ、桜の朝寝坊とも言われる。それに反して梅は、風

雪に耐え、寒さに堪えて、時節至れば雪の中でも開花する。春告げ花、雪中花とも言われる。梅には、清香芳潤、そして凛々しさがあり、桜には清純華麗、そして潔さがある。いずれも大和心の象徴とされるゆえんである。

今年、靖國神社御創立百四十年の節目の年である。大方御承知のとおり、靖國神社は、明治2(1869)年6月29日、戦没者の御名を万世に伝え、その神霊を慰めんとした明治天皇の思召しにより、九段坂上に祀られた「招魂社」に始まり、その後明治12年6月4日、「靖國神社」の社号と別格官幣社の社格が与えられた。東京大学名誉教授小堀桂一郎先生著『靖國神社と日本人』によると、戊辰の年(1868年・慶應4年・明治元年)の7月17日、江戸は東京と改称され、9月8日には明治と改元された。明治天皇は、8月27日に即位の礼を奉

行され、9月20日京都を発して東京の途につかれる。10月13日東京御到着。この時は一旦帰洛されたが、翌明治2年3月7日再度東京に向かつて出発され、3月28日東京御着、江戸城改め東京城にお入りになられた。天皇はそのまま東京に御滞在を続けられ、最早京都御還幸のことはなく、自然に東京奠都の事実が定着した。その年の6月軍務官副知事大村益次郎以下6名の新政府軍高級幕僚達が、東京招魂社建立候補地の九段坂上三番町通り元歩兵屯所跡地の検分を行い、適地と見て軍務官より東京府に対し土地引渡要請を行い、交渉は難無くまとまって、1週間後には建設工事が始まり、早くも6月28日夕には、九段坂上の「招魂場」に仮設された急拵えの本殿と拜殿において「清祓」の儀が修せられ、深夜29日の午前2時に「靈招」の式が行われたと記録されているとのことである。以

後、当日朝からの招魂祭第一日目は、朝廷御差遣の勅使を迎え、「知官事」の宮（仁和寺宮嘉彰親王、後の小松宮彰仁親王）を始め、新政府の大官、華族、各藩代表者、一般参拝者等が参列して厳肅盛大に挙行され、祝砲、奏楽も行われたとあり、翌6月30日にも祭典が挙行され、奉納相撲も催された。

この後続いて7月1日、2日、3日と合計5日間にわたって斎行され、最終日には昼夜花火の催し等があつて群衆が殺到したといふことであり、今日の例大祭や「みたままつり」を彷彿とさせる。この第1回の招魂祭の後、明治3年6月から、ほぼ現在の場所での社殿の本建築に取り掛かり、明治5年5月10日に完成したとのことである。

話が十分横道に逸れたが、桜の話に戻そう。靖國神社の境内には約800本の桜の木が植えられている。大部分はソメイヨシノザクラ（染井吉野桜）であるが、早咲きの緋寒桜（奄美原産・天然記念物）、大島桜、四季桜（冬桜の一種）、黄桜（ウコン桜）、八重桜（里桜）、山桜なども少数必ずつ見受けられる。靖國神社の桜には特別の想いと魂が込められている。招魂社時代の明治3年以来、戦友や遺族や崇敬者ら

の桜と秋の菊である。その御紋章も桜と菊で形作られている。

今日では、靖國神社の桜と千鳥ヶ淵の桜は東京の顔となつており、都の花を象徴している。古来桜は都の花である。桜はこの国の統治者の居所になくてはならない花なのであろう。桜と都が記録の上に現れるのは、持統女帝が飛鳥浄御原宮から藤原京に遷都（694年）されてからのことである。藤原京は唐風の都であり、春には埴安池に舟を浮かべて盛んな観桜の水上遊宴が開かれていたことが、『万葉集』巻第三（二五七番）の鳴君足人の長歌に歌われている。次いで元明女帝は和銅3（710）年、平城京（奈良）に遷都されたが、平城京を囲む丘陵には

自生のヤマザクラが花を咲かせていた。高円山や佐保山は奈良の都の貴族、官人達の観桜の行楽地であつた。次いで聖武天皇は、和名をトヨサクラ（豊桜）と申され、その名の如く桜を愛でられたので、貴族、官人達は競つて寺社や邸宅に桜を移植し、平城京・寧楽の都は花の都となつた。また、桜は、夷類悪霊の侵入から身を守る聖樹ともされたのである。

「あをによし 寧楽の京師は 咲く花の にほふがごとく 今さかりなり」
『万葉集』巻第三・三二八番・大宰

少貳小野老朝臣の歌

桓武天皇の平安京（794年遷都）については、最初の勅撰和歌集である『古今和歌集』所載の、素性法師の次の歌が有名である。

「見渡せば 柳桜を こきまぜて みやこそ春の 錦なりけり」

歴史は下つて中世の鎌倉も関東の都として桜があり、室町幕府の権勢を欲しいままにした3代將軍足利義満も自らの広大な邸宅を花の御所と称した。

一方、桜の名所として高名な吉野山は、天武天皇（大海人皇子）の壬申の乱以来の王朝の聖地でもある。中世に至り、建武の中興破れて後醍醐天皇の吉野行宮となり、南朝の悲歌「歌書よりも軍書にかなし芳野山」と歌われたが、古代、修験道の祖役小角が、金峯山での千日行満願の日に現れ給うた金剛蔵王権現のお姿を、自ら桜の木に刻み、堂を建立して祀つたと伝えられるところから、桜は蔵王権現の御神木とされ、吉野詣ではいつしか蔵王信仰に変わり、参詣者達は信仰の証しに桜の苗木を植えるようになり、その桜が、今に見る下の千本から奥の千本に至るまで全山を被う桜の森になつたと言われている。その王朝の聖地吉野を桜の行楽地に変えたのは、大園豊臣秀吉の吉野の花見（文禄3年・1594年）

であつた。秀吉は更に3年後、京都洛南の醍醐寺に下醍醐から上醍醐まで七本本の桜を移植し、そこを吉野山に見立てて、盛大な花見の宴を催し、その光景を「醍醐花見図屏風」に描かせている。次いで徳川家康も、江戸開府以来、上野忍ヶ岡や江戸城、隅田川の河畔浅茅ヶ原に桜を植えて、西の都京都に対し、江戸を東都と呼んだ。徳川幕府は歴代桜を好んだが、特に吉宗の代には飛鳥山に桜の名所を設けるなどした。また、江戸時代には園芸技術の急速な進歩により、園芸専門書や草花図譜も多く著され、元禄8（1695）年刊行の「花壇地錦抄」には46種の桜が記されており、天保年間（1830〜44年）刊行の「古今要覧稿」の草木部桜の項には134種の絵図が掲載されているとのことである。その後、明治、大正、昭和と、戦前までは桜の栽培と改良、保存は、ますます盛んになり、品種も400種を数えるほどになつていたが、戦中戦後の荒廃とその後の高度成長に伴う無計画な都市化の拡大、河川や道路の改修、拡張、環境の汚染等によつて自然破壊が進み、かつて街道筋や河川敷に見られた美しい桜並木は大半が姿を消し、現存の桜も余命幾許もない有様となつたが、近年ようやく桜保存の試みが少しずつ行わ



南部利昭宮司を偲ぶ

靖國神社宮司南部利昭氏急逝の訃報に接したのは、平成21年1月8日、偕行社における新年賀詞交換会の席上においてであった。一瞬、正に晴天の霹靂とも言える衝撃が走った。

前日の1月7日昭和天皇崩御から満20年に当たるその日、昭和天皇武蔵野陵遙拜式を終わった後、午前11時50分

れるようになった。その中で最も規模

が大きいのは、八王子の高尾にある農水省林野庁・森林総合研究所「多摩森林科学園」のサクラ保存林である。全国各地の著名なサクラの品種保存とその美しさを広く伝えることを目的として昭和41年に設置が決まり、以来桜の品種収集、苗木作りや造成、植栽を続けて、今では約8ヘクタールの面積に約250種、約2千本の桜が植えられている。首都東京の桜もこのようにし

て守られているのである。

今年も4月4日(土)、靖國神社の参道・大村益次郎銅像前で「靖國神社の桜の花の下で『同期の桜』を歌う会」が開催される。第25回目である。『同期の桜』の原曲は、西条八十が少女俱樂部に発表した叙情詩「二輪の桜」を原作とし、海軍軍楽隊出身で、名曲「麦と兵隊」を書いた大村能章の作曲により、昭和14年にキングレコードが発表した、樋口静雄の歌う「戦友の唄」

頃、宮司室で執務中、急に意識不明となり、救急車で駿河台日本医大病院に運ばれたが、手当ての甲斐なく、午後2時9分、虚血性心不全のため逝去されたとのことであった。享年75歳(満73歳)であった。

南部宮司のもと、靖國神社御創立百四十年の節目の年、その記念事業の一つである能楽堂と手水舎の改修工事が完了し、旧臘22日にはその竣工祭が行われるなど、記念事業が着々進行中の最中、余りにも突然の悲報であった。

南部宮司は、昭和10年9月16日、旧盛岡藩20万石の藩主、元伯爵、南部家第44代当主・俊英氏の三男として生まれ、学習院の幼稚園から大学まで常陸宮殿下の御学友の榮に浴した。昭和33年、学習院大学政経学部経済学科を卒

で、「君と僕とは二輪の桜」という演歌調の歌謡曲であったものを、昭和17年に、当時海軍兵学校の1号生徒であった海兵71期の帖佐裕(海軍大尉)が「貴様と俺とは同期の桜」などと歌詞を置き換えて海軍で歌われるようになってから、歌がガラリと変貌して今のようないな武張った歌になったということであり、戦時中は、多くの特攻隊員を送る別れの宴などで歌い継がれてきたのである。桜の花の下でこの歌を歌うと

思わず感涙に咽ぶのである。

「離れ離れに散ろうとも 花の都の靖國神社 春の梢に咲いて会おう」と誓い合い、身を擲って祖国の危急を救い、家族を守らんとした英霊の魂はここに宿るのである。靖國神社の桜は、そうした尊い御霊の依代なのである。そのことに思いを致し、大切に守り育てて、後世に引き継いでいただきたいものである。(飯田正能記)

業後、(株)電通に入社し、25年間勤務された。この間、東京本社第四連絡局参事、同第六連絡局部長などの要職を歴任。昭和55年、南部家第45代当主となり、同56年からは、南部恒産株式会社代表取締役を務められた。

南部宮司は、平成16年9月11日、前宮司湯浅貞氏の後を受けて第九代靖國神社宮司に就任され、爾来、4年4カ月にわたって立派にその重責を担われた。その間、祭祀の厳修・英霊の奉慰顕彰はもとより、中門鳥居の建替え、社頭神札所の改修、御創立百四十年記念事業としての能楽堂等の改修その他の事業を進める等、神苑整備に尽力された。また、平成17年から18年には、小泉首相の靖國神社参拝を宮司として見届けたほか、各地で相次ぐ靖國訴訟

事案への対応など、靖國神社の国家公共性の顕現に尽瘁された。いわゆる靖國問題の渦中であって、常にこれと真剣に取り組まれる一方、一般参詣者に対しては、絶えず温容をもって気さくに接して来られた、その誠実なお人柄が胸に焼き付いている。今はひたすら御冥福をお祈り申し上げ、今後とも御指導、御加護を賜らんことをお祈り申し上げるのみである。

南部家による葬儀は、1月11、12の両日、三井勝生権宮司が齋主となり、東京・信濃町の千日谷会堂において、しめやかに執り行われ、約1千2百名が会葬に訪れた。天皇陛下より祭料を賜り、11日午後6時からの遷霊通夜祭には、三笠宮寛仁親王殿下が御参列になられたほか、常陸宮家、三笠宮家、

「北方領土の日」に思う



桂宮家、高円宮家より御供花が供えられた。また、翌12日午後1時からの葬場祭では、古河潤之助氏、靖國神社崇敬者総代)、前田利祐氏(霞会館理事)、寺

元尚志氏(学習院大学ラグビー部OB会)、西郷典安氏(ロータリークラブ第二五二〇地区ガバナー・代読同パストガバナー小川惇氏)が弔辞を述べた。

次いで、靖國神社葬が2月10日、九段会館大ホールにおいて厳肅盛大に齋行され、小田村四郎氏(靖國神社崇敬者総代)、北白川道久氏(社団法人霞

会館理事)、古賀誠氏(財団法人日本遺族会会長)が弔辞を述べ、約2千名の会葬者が玉串を捧げて拝礼した。(飯田正能記)

2月7日は「北方領土の日」である。

この日九段会館において開かれた北方領土返還要求全国大会に出席した麻生

総理は、「ロシアと日本との関係を高

い次元に引き上げるためにも、最大の懸案である北方領土問題を最終的に解決する必要があり」と述べた。2月18

日に、ロシア極東サハリン(樺太)において行われたメドベージェフ大統領との日露首脳会談、また、5月に来日予定のプーチン首相との日露首脳会談を前に、問題解決への強い意欲を示したものである。

北方領土とは、周知のとおり、北海道と千島列島との間に位置する歯舞(はぼまい)群島、色丹(しこたん)島、国後(くなしり)島、択捉(えとろふ)

島の諸島を言うのであるが、この諸島は元々我が国固有の領土であって、千島列島には含まれないものである。

更に日本とロシアは、明治8(1875)年5月、樺太・千島交換条約を締結した。この条約は、樺太に対する領有権を日本が放棄し、その代償として日本が、千島列島に対する領有権を

11日に侵攻を開始した。当時、樺太及び千島方面における我が軍の防備態勢は十分ではなかった上、中央の指導、支援もほとんどない中で、第五方面軍の第88師団と第91師団基幹が樺太、北千島の正面で、それぞれ必死に対応しなければならなかった。

北方領土は、大東亜戦争終了直後にソ連によって不法占拠されるまでは、一度も外国の領土となったことがなく、徳川幕府時代には、松前藩の管轄(時として幕府の直轄)下にあり、明治以降は、北海道の一部として統治されてきた。行政区画上は北海道根室支庁に属する。

日本とロシアとは、幕末の安政元年12月(1855年2月7日)日魯通好条約(日露親親条約、下田条約とも言う)を締結して初めて国交を開いた。この条約により、両国間の国境は、択捉島と得撫(ウルップ)島との間にあり、得撫島以北はロシアの領土であること

日本への割譲が決まった。昭和20(1945)年8月8日、ソ連は一方的に日ソ中立条約を破棄して(同中立条約は、昭和16年4月13日に締結され、5年の有効期間を定めていた)対日宣戦を通告し、翌9日未明からソ満国境各正面で一斉に侵攻を開始した。また、樺太の国境正面でも8月

日本とロシアとは、幕末の安政元年12月(1855年2月7日)日魯通好条約(日露親親条約、下田条約とも言う)を締結して初めて国交を開いた。

この条約により、両国間の国境は、択捉島と得撫(ウルップ)島との間にあり、得撫島以北はロシアの領土であること

同日正午、天皇陛下の終戦に関する「玉音放送」が行われ、大本営の処置は遅れがちではあったが、同日夜「積極進動作戦中止」を、翌16日午後「即時戦闘行動停止」を命令した。第五方面軍においても、樺太方面への増援等は全て中止され、方面軍司令官は全將兵に対して軽拳妄動を慎み、軍紀、風紀を正して各部隊長以下一糸乱れぬ行動に出て、内外に日本武士道の真髓を発揮するようにとの訓示を示達し、自重を要望した。この時点でソ連軍は、樺太においては日本軍の激しい抵抗に

日本とロシアとは、幕末の安政元年12月(1855年2月7日)日魯通好条約(日露親親条約、下田条約とも言う)を締結して初めて国交を開いた。

この条約により、両国間の国境は、択捉島と得撫(ウルップ)島との間にあり、得撫島以北はロシアの領土であること

同日正午、天皇陛下の終戦に関する「玉音放送」が行われ、大本営の処置は遅れがちではあったが、同日夜「積極進動作戦中止」を、翌16日午後「即時戦闘行動停止」を命令した。第五方面軍においても、樺太方面への増援等は全て中止され、方面軍司令官は全將兵に対して軽拳妄動を慎み、軍紀、風紀を正して各部隊長以下一糸乱れぬ行動に出て、内外に日本武士道の真髓を発揮するようにとの訓示を示達し、自重を要望した。この時点でソ連軍は、樺太においては日本軍の激しい抵抗に

日本とロシアとは、幕末の安政元年12月(1855年2月7日)日魯通好条約(日露親親条約、下田条約とも言う)を締結して初めて国交を開いた。

この条約により、両国間の国境は、択捉島と得撫(ウルップ)島との間にあり、得撫島以北はロシアの領土であること

同日正午、天皇陛下の終戦に関する「玉音放送」が行われ、大本営の処置は遅れがちではあったが、同日夜「積極進動作戦中止」を、翌16日午後「即時戦闘行動停止」を命令した。第五方面軍においても、樺太方面への増援等は全て中止され、方面軍司令官は全將兵に対して軽拳妄動を慎み、軍紀、風紀を正して各部隊長以下一糸乱れぬ行動に出て、内外に日本武士道の真髓を発揮するようにとの訓示を示達し、自重を要望した。この時点でソ連軍は、樺太においては日本軍の激しい抵抗に

日本とロシアとは、幕末の安政元年12月(1855年2月7日)日魯通好条約(日露親親条約、下田条約とも言う)を締結して初めて国交を開いた。

この条約により、両国間の国境は、択捉島と得撫(ウルップ)島との間にあり、得撫島以北はロシアの領土であること

同日正午、天皇陛下の終戦に関する「玉音放送」が行われ、大本営の処置は遅れがちではあったが、同日夜「積極進動作戦中止」を、翌16日午後「即時戦闘行動停止」を命令した。第五方面軍においても、樺太方面への増援等は全て中止され、方面軍司令官は全將兵に対して軽拳妄動を慎み、軍紀、風紀を正して各部隊長以下一糸乱れぬ行動に出て、内外に日本武士道の真髓を発揮するようにとの訓示を示達し、自重を要望した。この時点でソ連軍は、樺太においては日本軍の激しい抵抗に

あつて、国境線を越えたばかりのところで阻止されており、千島にはまだ一歩も足を踏み入れていなかった。

ところが、ソ連軍は攻撃を止めるどころか、日本軍がまだ抵抗を続けているとの理由で、攻撃続行を声明し、日本のポツダム宣言受諾が確認された8月15日、極東軍司令官ワシレフスキー元帥は、第二極東方面軍及び太平洋艦隊に対して樺太西岸の真岡への上陸及び千島列島北部占領を命令した。

これより先、昭和20(1945)年2月11日のヤルタにおける米英ソ三国秘密協定(いわゆるヤルタ協定)においては、ソ連の対日参戦の見返りとして、樺太の南部及びこれに隣接する一切の島嶼はソ連に返還、千島列島(どの範囲を意味するか、必ずしも明確で

はない)はソ連に引き渡されることになつていた。

同年7月26日、ポツダム宣言が発表されたが、同時にポツダムにおいて米英ソ三国軍事会議が開かれ、ソ連の対日参戦に当たつての米ソ海軍及び航空部隊の作戦区域の協議が行われた。その結果、ベーリング海とオホーツク海を米ソ海空軍共同作戦区域とし、千島では音瀬古丹海峡を米ソ海空軍作戦境界とすることで合意した。

同年8月15日、トルーマン大統領はスターリン首相に対して、降伏の細目に関し、日本に与える一般命令第一号を決議した旨とその内容を通知した。その眼目は、日本軍の降伏を受け入れる各国担任地域の割当てであり、実質的な占領地域を意味していた。ソ連の

担任地域には、満洲、北緯38度以北の朝鮮及び南樺太は含まれていなかったが、千島列島には触れられていなかった。しかし、実際には、先の三国軍事会議の合意のとおり、米国統合参謀長会議では、音瀬古丹海峡を境界にしてそれ以北をソ連軍、以南を米軍による分割占領が考えられていた。スターリンは直ちに16日、トルーマンに書簡を送りソ連軍に対して日本軍が降伏すべき地域に、ヤルタ協定に基づき千島列島全部を含めること、更に釧路市と留萌市を結ぶ北海道北半分を同地域に含めるよう新たな要求を加えた。スターリンが18日に受け取った書簡(文書日付は17日)でトルーマンは、千島列島をソ連軍地域に含めることには同意したが、北海道北部の占領を拒否し、更に中千

島の一つに米軍航空基地を設ける権利を要求した。スターリンはすぐには決断できかねたのか、トルーマンへの返事も必要な指令も暫く出さず、樺太、千島の作戦と、北海道北部占領作戦の準備が並行して行われることになる。ソ連は米軍の進出がないことを幸いに、日本固有の領土である南千島及び北海道に付属する歯舞群島、色丹島まで占領した。しかも、歯舞群島の占領は日本の正式降伏調印(9月2日)後に行われたものである。スターリンは8月22日まで、樺太、千島の作戦と北海道北部占領の作戦準備を続けた後ようやく断念した。本土分割の悲劇は危ういところで回避されたのである。

(飯田正能記)

協議会参加団体の紹介

⑪全国海洋戦没者

伊良湖岬慰霊碑奉賛会

一 慰霊碑の由来等

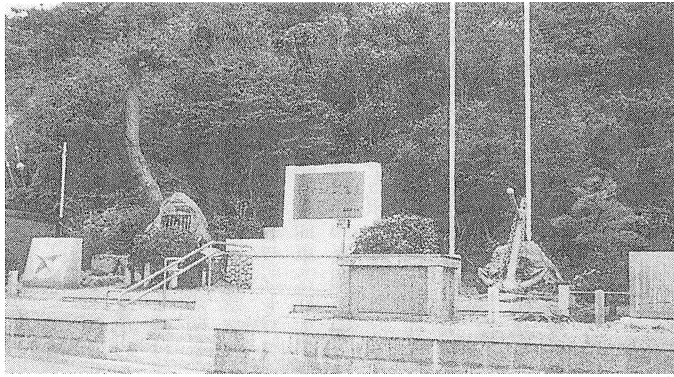
この碑は、大東亜戦争において、海洋で戦没され、遺体収容の方途もなく永遠に海底深く眠る我が機動艦隊戦没者並びに一般海空戦没者の英霊を慰め、

世界の恒久平和を祈念するため、元第一機動艦隊生存者の会・潮会(初代会長は元第一機動艦隊司令長官で終戦時の連合艦隊司令長官小沢治三郎中将)及び戦没者遺族有志の発起により、一五八八名の善意を結集して昭和47年10月30日に完成、翌11月3日建立除幕式が執り行われ、以来毎年追悼式典が実施されてきた。

これより先、昭和41年11月9日に、小沢治三郎中将が逝去され、東京・大塚の護国寺において盛大な葬儀(葬儀委員長長谷川清元海軍大将)が営まれたが、葬儀に際し、昭和天皇から下賜された祭祀料を、小沢石路未亡人から同葬儀に奉仕した元第一機動艦隊・潮会に寄付された。その際、これを基金として拠金を行い、海空戦没者の慰霊碑を建立することが提唱された。潮会では、昭和43年6月、植田九一氏(元豊橋市議会議長、海軍主計中尉)の世

話で、会員50余名が伊良湖岬に集まつて海浜慰霊祭を行い、日出海岸の公園内に、島崎藤村の「椰子の実」の詩碑と並んで、海空戦没者慰霊の仮碑を設置した。その碑文は「君 今 ここに甦る」と選定され、檜材の木碑に、会員の川崎市・戒翁寺住職清水定彦氏が墨書した。

伊良湖岬は、本邦のほぼ中央に位置し、伊勢の神域にも近く、また、島崎藤村の「名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ」の詩碑にも詠まれて



全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑

いるように、南海から黒潮が寄せる恋路ヶ浜には、はるばると海を渡って椰子の実が漂着するという最適の場所である。しかし、国定公園内であるため他へ移転しなければならぬという問題が起こり、前記植田九一氏の御尽力により、愛知県観光開発室の指導を得て、古山の南腹が建碑の最適地選ばれ、また、伊良湖自治会から、格別の御配慮により場所の提供を受けたのが現地点である。

その移転に際し、仮木碑を本格的な石碑とすることに、昭和43年末から潮会(二代目会長古村啓誠元海軍少将)により募金が始められ、水交会、東郷会等の御協力、愛知県を始め各地遺族会の積極的な御支援を得て、建碑の募金は四二九万円に達した。

昭和47年11月3日の慰霊碑建立除幕式には、式典委員会委員長古村啓誠、副委員長植田九一、同寺崎隆治の諸氏を始め御遺族、戦友、来賓等三五〇余名が参列して盛大に執り行われた。

除幕には、空母「瑞鶴」と運命を共にされた艦長貝塚武雄少将の御令孫敏弘さん(匡弘氏の長男五歳)と豊橋市から応召され瑞鶴乗組の水兵として戦死された中原金次氏の御令孫美香さん(長男孝氏の長女三歳)の幼い二人が、参列者の見守る中、綱を引いて幕が取り除かれ、「君今ここに甦る」の碑文が燦然と輝いた。この碑文は、当時の全国知事会長、愛知県知事、桑原幹根氏の揮毫によるもので、英霊鎮魂にふさわしい碑文である。

翌、昭和48年10月20日には、高松宮宣仁親王殿下の御台臨を仰ぎ、陸海空自衛隊の協賛を得、約六百名が参列して、盛大な慰霊祭が執り行われたが、その年の暮れ頃、潮会から「今後愛知を中心とした地元でこの碑の面倒を見

てほしい」との申し入れがあり、協議の結果、「海底深く眠る英霊や、未だに遺骨の還らない英霊は、ひとり機動艦隊戦没英霊だけではない。数多くの海戦や、輸送途中の船団の沈没、名もない島やジャングルで倒れたままの陸上部隊の陸軍、海軍、民間の英霊、その総ての英霊を合祀して、世界の恒久平和を祈ることがよい」との合議がな

り、地元愛知で碑の維持管理、式典など一切を引き受けることとし、また、遺族、戦友の希望に、昭和49年10月27日の慰霊祭から、この碑の碑名を「全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑」と改称し、陸、海、空、民間を問わず、合祀希望者を募り慰霊祭を執り行うこととなったものである(合祀者数は、平成9年11月の第26回追悼式現在で、二万六百五十三柱であり、慰霊碑にはその英霊芳名簿が収納されている)。なお、昭和49年1月、潮会の二代目会長古村啓誠氏が脳溢血で倒れたので、寺崎隆治氏が三代目会長に推戴された。昭和51年11月3日の第五回慰霊祭には、三笠宮崇仁親王殿下の御台臨を仰ぎ、陸海空自衛隊が参加して厳粛盛大な式典が執行された。

昭和56年10月10日の慰霊祭は、慰霊碑建立10周年に当たり、高松宮宣仁親王殿下、同妃喜久子殿下の御台臨を仰

ぎ、御遺族(小沢連合艦隊司令長官未亡人を始め約百名)、会員、来賓、海洋少年団等約二千名が参列、海(護衛艦あやせ、てしお)、陸(儀杖隊)、空(飛行機6機、音楽隊)の各自衛隊が参加、高松宮殿下より御鄭重なるお言葉を賜り、また、妃殿下より特に「わだつみの 千尋の底に沈みつ つ眠れる君等 偲ぶ石ぶみ」の御歌を賜る光栄に浴し、翌年これを石碑に刻して境内に奉設した。

昭和61年11月3日の慰霊祭は、慰霊碑建立15周年に当たり、高松宮、同妃両殿下御台臨の御内諾を得ていたところ、高松宮殿下御不例のため取り止めとなったが、殿下は同年10月初め寺崎会長を御殿にお呼びになり、御自ら推敲された次のお言葉を伝達するよう託された。

戦後四十一年、今日わが国は世界の国々が驚くほどの繁栄をもたらし、平和で幸福な日々を送ることの出来ま

○高松宮宣仁親王殿下のお言葉

「本日全国各地から御遺族戦友をはじめとし、地元の方々及び有志各位等多数お集まりの下に、全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑建立十五周年追悼式典が行われ、太平洋、印度洋の海深く眠る数万の、みたまもさぞお喜びのことと存じます。

ことは、全く国の為身命を捧げた英霊のお加護によるもので今更ながら感謝に堪えません。

同時に、一家の柱石を失われたご遺族の物心両面のご苦労はいかばかりであったことかと深くご同情申し上げます。

『君今ここに甦る』の慰霊碑が再び戦争の惨禍を起こさないように、永遠の世界平和の道しるべとなるように祈念致します。

終わりにご遺族をはじめ皆様のご健勝をお祈りすると共に多年本慰霊碑の維持、管理並びに式典行事に尽力され又されつつある委員会、自治体、諸団体、全国の有志、特に地元の方々のご奉仕を多とすると共に、今後とも英霊の慰霊顕彰にご尽力戴き、ひいては世界平和に寄与して下さる様お願いしてご挨拶と致します。」

高松宮殿下には、翌昭和62年2月3日、全国民の悲願も空しく御薨去あらせられ、哀悼の極みである。殿下の御鴻恩を深謝し、皇国の安泰、繁栄と世界の平和を祈念いたします。

平成3年11月3日の慰霊碑建設20周年記念式典に際し、高松宮妃殿下から次のようなお言葉を戴いた。

○高松宮妃喜久子殿下のお言葉
「全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑建設

二十周年記念追悼式典が本日挙行されますこと、まことに意義あることと存じます。故高松宮殿下もさぞや御満足遊ばされることと存じます。

省みませば昭和五十六年の慰霊碑建設十周年式典には高松宮様とご一緒に伊良湖岬に立ち、太平洋を一望のもとに見渡す、あまりにも美しい静かな景勝地であるが故に、よりいっそう悲しみの深まる中で、海底深く眠られる数万の英霊に思いを馳せたものでございました。

わだつみの 千尋の底に沈みつ、
眠れる君等 偲ぶ石ぶみ

すべての思いをこめて捧げましたこの歌の碑は今なお、茫洋とした太平洋を見下ろし、いかなる時代にも微動だにせず、歴史の証として保たれて行くことと存じます。

こうした思い出の秘められました伊良湖岬にはぜひ伺いたいかねてから願ひながらも、記念すべき二十周年の式典には参列ができませんこと、大へん残念に存じ、せめてもの、このつさせぬ悲しみを歌に託させて頂き、皆様方と共に英霊に心からの追悼を捧げる次第でございます。

惜しみてもなほ あまりあり
今しこの世に 君等ありせば

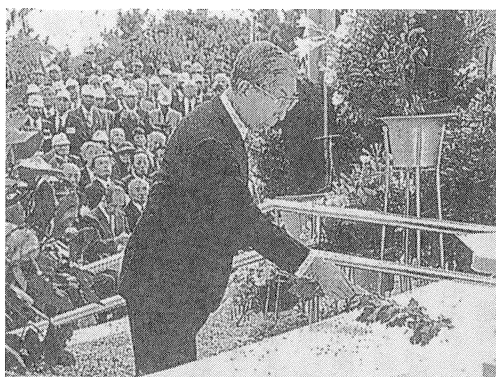
思えば本年は早くも開戦時より五十年となり、感無量でございます。半世紀という長きにわたり、どれほど沢山の方々が戦争によって消えやらぬ心の痛みを抱え、計り知れぬ困難な道を歩み続けてこられたことか、とご苦労のほどが身に沁みて思われるのでございますが、皆様方が毅然としてはげしい風雪にも耐え、あらゆる困難を克服してゆく強い姿勢で今日までこられたことは、ひとえに皆様方の貫かれた精神力と英霊のご加護のたまもの、とありがたく存じております。

尊い犠牲を払った戦火を越えて、いまや日本の繁栄はすばらしく、平和そのものの世の中になってまいりました。その反面、あの暗い過去も次第に薄れゆき、私共の背負ってきた筆舌につくし難い苦しみ、悲しみの理解さえも遠くなり、肌で感じ得ぬ、もどかしさもございます。何もかも満ち足りた現状にあつてこそ、いま改めて過去を振り返り、二度とくり返してはならぬ惨禍のおそろしさを思い起こし、永遠の平和への道しるべ、そして真実の平和の心を必ずや次の世代の若い人たちに伝えていきたい、と切に願うもでございます。それでこそ英霊もお喜びくださることであろうと存じます。

終わりにごぞみ慰霊碑の維持、管理、

並びに式典行事のため全力を尽くされている委員会、自治体、諸団体、全国の有志、特に地元の方々のご奉仕に対し厚く感謝をのべ、同時に本日参集された皆様のご健康と繁栄をも合わせて願ひ、私の「ごあいさつ」といたします。」
更に翌平成4年11月3日の第21回全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑追悼式典に際しても、高松宮妃殿下から次のようなお言葉を賜った。

○高松宮妃喜久子殿下のお言葉
本日、この佳き日に当たり御遺族の方々もそれぞれの思いを持って親しくお集まりのことと存じます。



慰霊碑に献花される三笠宮崇仁殿下

昨年十一月三日、本慰霊碑建立二十周年式典も盛大に滞りなく挙行され、

全国から参列された遺族の皆さん方には、尊い英霊を偲ばれつつも心安まるひとときを過ごされたことと推察いたしておりました。

本日の式典に於きましては、既に建立されております私の歌碑に、更に昨年度心をこめて捧げました、
惜しみても

惜しみてもなほ あまりあり
今しこの世に 君等ありせば

の歌が加えられ、二首を収めた歌碑として末長く後世に残されますことを伺い、改めて深い悲しみを禁じ得ぬ思いをいたしております。

顧みませば半世紀、五十年を過ぐる今日の日本の平和、繁栄はひとえに英霊の御加護によるものであり、また遺族方が一致団結しての固い絆の基に、折にふれこの伊良湖岬につどい、祈りを捧げられる感謝の心は、必ずやしずまりました英霊の御魂にも届き、いやまして御守りくださることと確信いたしております。

早くも故高松宮殿下の薨去より五年の歳月を経っておりますが、今もつて変わらぬ遺族方の貫かれた精神に皆様も御満足遊ばされておられることと存じます。何とぞ本日の式典に際しまして、心も新たに明日に向けての覚悟の程を誓い合い、と同時に次の時代時代の人々

に、意義に添って真実の尊い歴史と使命をきちんと伝えて行かれるよう、一層の努力を念願いたす次第でございます。

終わりにのぞみ慰霊碑の維持、管理並びに式典事業運営のため全力を尽くされておられる委員会、自治団体、陸海空自衛隊や諸団体、全国の有志、特に地元の方々の御奉仕に對しまして厚く感謝を申し上げます。

なお、御出席の方々の御健康と繁栄をも合わせて願ひ、御挨拶いたしました。

次いで、平成8年11月3日の第25回全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑追悼式典には、三笠宮崇仁親王殿下の御臨席を仰ぎ、遺族や戦友、関係者等約千名が参列して厳肅、盛大に営まれた。

当日の様相を地元の新聞は次のように報じている。

「第二十五回全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑追悼式典(全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑奉賛会主催)が、三日午後零時半から渥美郡渥美町伊良湖岬恋路ヶ浜の同慰霊碑前で、三笠宮崇仁殿下をお迎えし、関係者や遺族ら約千人が参列して営まれ、海底に眠る戦没者に、平和の祈りを込めて、鎮魂歌を捧げた。追悼式典は、式典副委員長で現地総括責任者の神藤光雄さんの司会で行わ

れ、海上自衛隊横須賀地方総監部音楽隊の演奏による国旗、軍艦旗の掲揚に始まり、合祀者名簿の収納、黙禱の後、徳倉正志式典委員長が「国のために命を捧げた英霊の愛国精神を我ら戦友が引き継ぎ、若人に輪唱して、世界に向かつて前進していくことを誓う」との式辞を述べた後、遺族を代表して岡崎市の西尾カナエさんが「私たち残された者にとつても、戦後五十年は長く重たい歳月でした。夫に戦死され、生後五十日の乳飲み子を抱えて、私は生きるために一生懸命働きました。今ここに眠る方々のことを思うと、いろいろな思いが込み上げてきて胸が一杯になります。どうか安らかに眠り下さい」と追悼の言葉を述べた。地元の伊良湖小学校六年・小久保憲史君が地元児童代表として「僕たちは二度と戦争を起こさないよう、平和な社会をつくることに努力します」との誓いを述べた。

この後、三笠宮殿下をはじめ参列者代表らが献花し、上空では航空自衛隊の航空機が弔問飛行をした。

同慰霊碑は、太平洋戦争において、海洋で戦没した英霊をはじめ陸、海、空、民間の戦没者英霊を慰め、その功績を顕彰するとともに、世界の恒久平和を祈念するために、元第一機動艦隊関係者、遺族有志を發起人として昭和

四十七年に建立された。太平洋戦争において海洋などで亡くなった二万余柱の戦没者を祀り、毎年十一月三日に慰霊祭が行われている。

敷地内には、昭和四十八年十月二十日、高松宮殿下がご出席の際お手植えの「シャリンバイ」、同五十一年十一月三日、三笠宮・同妃両殿下お手植えの「松」、同五十六年十月十日、高松宮・同妃両殿下がご出席された際、同妃殿下から賜った

わだつみの 千尋の底に沈みつと
眠れる君等 偲ぶ石ぶみ
と、平成三年十一月三日、建碑二十周年に、同妃両殿下から賜った
惜しみても

惜しみてもなほあまりあり
今しこの世に 君らありせば
の歌碑も建てられている。」
二 「全国海洋戦没者伊良湖岬慰霊碑奉賛会」事務局
〒441-8033
愛知県豊橋市入船町九六一二
神藤株式会社内(会長神藤光雄)
TEL(0532) 46-7788
FAX(0532) 46-7789

平成20年度

「シベリア鎮魂慰霊祭」

東京ヤゴダ会
副会長(軍校7期) 茨木 治人

シベリア抑留戦友団体連合会・東京ヤゴダ会・JYMA(旧・日本青年遺骨収集団)共催による平成20年度「シベリア鎮魂慰霊祭」が、平成20年11月3日(月)秋空の下、千鳥ヶ淵戦没者墓苑において、抑留生存者、御遺族、JYMA関係学生・社会人、協賛者等百余名が参列して、厳粛盛大に執り行われた。

慰霊祭は12時30分に開始され、国歌斉唱、黙禱に続いて御遺族・梶原佑倅導師による読経並びに遺族としての挨拶があり、次いで、ソ連軍の進行に対し最も勇敢に戦った関東軍第一方面軍第五軍参謀長・河越少将の御子息河超重臣氏より、ソ連の戦犯となつて昭和31年12月、最後の復員船で帰国寸前ハバロフスクで急死された父上を偲び、堪え難い胸中を吐露された、感極まる「追悼の辞」と、抑留戦友会を代表して関本薫氏の熱情溢れる「追悼の言葉」がそれぞれ捧げられた。

吟詠、尾山喜一君(同期61期生)の謡曲「鉢の木」の朗詠、御遺族でありプロの歌手でもある丘とみ子様の「哀愁のシベリア」の熱唱、新時代の尺八演奏家・き乃はちプロによる尺八の演奏がそれぞれ行われ、深い感銘のうちに慰霊奉納演奏を終了した。

次いで、東京ヤゴダ会藤井弥五郎會長から、本年度シベリアより217柱の御遺骨を収集して墓苑にお迎えしたザ・バイカル地方JYMA派遣隊員の紹介と参列者に対する感謝の挨拶があり、参列者全員による献花の後、シベリア鎮魂歌「北斗星」を全員で斉唱して滞りなく慰霊祭典を終了した。

その後、九段会館地下「千成」に移動して懇親会を実施したが、席上ザ・バイカル地方遺骨収集JYMA派遣隊員の野崎史弥、山口美朝の両君(学生)及び佐々木優子さん(社会人)から遺骨収集の状況報告と感想をそれぞれ力強く語り、次世代を担う青年のシベリア鎮魂慰霊への情熱を感じ取ることができ、大きな期待を持たせてくれ、慰霊祭参加の高齢抑留者グループに元氣と活力を与えてくれた。多くの若いJYMAの学生、OB・OGの参加を得て、懇親会は大いに盛り上がり、予定時刻を超過する盛況となったが、来年の再会を約して解散した。

追悼の辞(抄) 遺族 河越 重臣

…我々遺族・遺児は、抑留者の方々から抑留体験を聞き、収容所跡を訪ね、皆様が眠っておられる墓地らしい所を訪れました。皆様は毎日家族を思い、古里を想い、一日も早く故郷の土を踏みたいと思われたことでしょう。しかし、その思いが叶う事なく、シベリアの凍土の中に眠る事となられた皆様の胸の内は、無念の思いで一杯だった事でしょう。しかも、未だ遺骨や遺品も日本に帰れず、埋葬場所さえ不明の方が数多くおられ、4万人以上と聞いております。

私ども遺族・遺児は、戦後の日本で、一家の柱である父親が居ないための生活苦を、いやと言うほど味わつてきました。収入はない、家もない、食べ物もない、弁当も持つていけない遺児は、学校の昼食時間には校庭の隅で一人さみしく、ひっそりと昼食時間の終わるのをじっと待ちました。中学校を卒業し、家の生活を助けようと、就職を希望して校長先生の推薦状も貰いましたが、父親の居ない中卒者は、願書さえ受理してはくれませんでした。父親が居ないというだけで、成績が良くても酷い扱いを受けました。学校の修学旅行にも行けず一人じっと自習しておりました。正月の餅すら食べられず、

じつと我慢して父の帰国を待つていました。毎日父の顔を思い出して何時帰つて来てくれるのか、何時会えるのかと、しかし、会う事は出来ませんでした。昭和31年12月26日、舞鶴着の最後の復員船・興安丸で帰るといふ知らせが来て喜んだのも束の間、24日に突然、朝日新聞の記者から「お父様はハバロフスクで亡くなれました」との知らせを受けました。後で、付き添つてくれた軍医さんの話では、毒殺とのことでした。

…シベリアの、慰霊参拝で訪れた場所は、殆どが車では近くまで入れないような所で、草や木や沼地を分け入り、大量のヤブ蚊に襲われるような所でした。墓らしいものも無く、土の盛り上がった「土まんじゅう」があるくらいで、そこには必ず「友よ安らかに眠れ」という墓標がありました。荒れ果てた異国の大地で、誰にも看取られる事なく、声も掛けられず、無念の思いで亡くなられた御英霊の皆様は、こんな所で「友よ安らかに眠れ」と言われても、土の下から「安らかに眠れる訳は無いだろう…早く迎えに来てくれ」とおっしゃりたいお気持ちでしょう。…御英霊の皆様、何時か千の風になって、故郷に帰つて来て下さい。何時までもお待ちしております。

○昭和天皇御製

国のため 命ささげし人々の
ことを思えば 胸せまりくる

○北斗星 (シベリア鎮魂歌)

- 一 はろばろ千里 故国遠く
 燦めく七つの 星の下
 まどらに結ぶ 父母の
- 二 今宵の夢よ さやかなれ
 凍てし大地の 野に森に
 死の霧白く こむる時
 はや陽の影は 傾きて
- 三 夜空に仰ぐ 北斗星
 燃ゆる血潮を 捧げ来し
 国は破れて 山河あり
 故郷はるかに 偲ぶ時
- 四 滲む涙の 幾ぞ度
 広野の風に 流離いて
 赤い夕陽の 歌声に
 果て無く酔いし 旅人の
 胸に寂しき 北斗星
- 五 燃ゆる希望を 旗風に
 若人強く 眉あげて
 固く誓いし 旗の下
 あの日の夢よ 今いづこ

(ブカチャーチャ収容所・公募当選歌・
青空園芸団作曲)

○命名「ヤゴダ」のいわれ
シベリアの湿地の草むらに、這うよ
うに生える小さな木に、秋になるとグ
ミのようなもつと小さな赤い実が沢山

付きました。これをロシア人はヤゴダ
と呼んでいました。草むらの中にこれ
を見付けると、私達はむさぼるよう
この実を頬張り、誰の口の周りも赤く
染まりました。作業に疲れ、飢えに打
ちひしがれていた私達には、その甘酸つ
ぱい味がしばし生気を呼び戻してくれ
ました。このことに万感の想いを込め
て、私達の集いを「ヤゴダ会」と命名
しました。ロシア語を耳から聞くだけ

で覚えた私達は、この木の実をヤゴダ
と言うのだらうとばかり考えていたわ
けですが、ロシア語のヤゴダと言うの
は、英語のベリーに当たる言葉で、日
本語では漿果ということ。クワの
実やグミ、ブドウのように果汁の
多い果実を総称する言葉です。私達が
頬張った赤い実やその植物だけを言う
訳ではなかったのです。ロシア人は、
木の実というような意味で呼んでいた

のでしよう。それでは懐かしいあの赤
い実は何の実だったのでしょうか。おぼ
ろげになった記憶を頼りに植物図鑑を
辿ってみて、とうとうコケモモ(ウス
ノキ)属の植物に行き当たりました。
これはツツジ科の植物で、この属の幾
つかの種の植物はシベリアに自生して
いるのです。あの赤い実はツルコケモ
モかコケモモのどちらかに間違いない
でしょう (以下略。浅平端氏記)

哀愁のシベリア

(歌) 丘とみ子

KICB 2187
KISD 2187

子正久光 代佳正
美田口 渡山
原詞作曲編曲

(台詞)

お父さん
故郷に家族を残し 若い身空で死ぬなと
私をかし 心の平たなでしよね
私も 正しい運命のめかざる道を
懸命に生きてきました

(台詞)

か細い女の聲で 健気がなりました
哀愁で下へ
寒いシベリアから 今年も白鳥が飛んできたら
五国のおまんが 会いに来てくれたと思います

一、あなたが眠る シベリアへ
骨まで凍る シベリアに
やっと来ました 霜をまじした
五十有奈の歳月は
くやし涙も 枯れたけど
思い出します 涙として
「父を頼む」のひとときを

二、あなたの写真 見たたびに
この世の無常 はかなさで
今も悲しく じのります
五十有奈の歳月に
懐かしみは 捨てたけど
思い出します 涙として
「勝つて帰る」のひとときを

三、あなたの笑顔 忘れない
バイカル湖畔 金鳳花
花を持つ手が 震えます
夢まぼろしの 歳月が
呼んで戻りは しないけど
今度生まれ来ると時は
共に白髪で 喜ぶために

〈振付〉九重流家元 九重恵美路

哀愁のシベリア

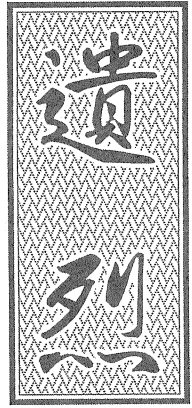
あなたをねがひるシベリアへ ねがいでこゝるシベリアに

やっと来ました つきまじした

こじゅうごのよのとしつきは くやしなみだも

かれたけいど おもいだしますドんとして

おやまと一の一のひとこと



表題は、当協議会の参加団体である「特定非営利活動法人ジェイワイエムエイ」(英文表記「Japan Youth Memorial Association」略称「JYMA」(旧日本青年遺骨収集集団)の機関紙(月刊)の題字であるが、その第107号(平成21年2月1日発行)に、平成20年度の戦没者遺骨収集等の事業に参加した隊員達の、感動的な報告文が掲載されているので、御了承を得て転載させていただきます。

【ガダルカナル島慰霊清掃奉仕団報告文】

意思を継ぐ

ガダルカナル島慰霊清掃奉仕団

法政大学二年 藤浪 達哉

今回、私はガダルカナル島慰霊清掃奉仕団の一員として参加しました。しかし、私はボランティアとは何なのか分かっていませんでした。ボラン

ティアと聞くと、自分の身を削り、良くて社会事業などに無償で参加する人というイメージがあります。

大学に入り周りの友達がボランティアアサークルに入り、海外などに行く事に、何かネガティブなイメージを感じていました。それは何だろうと考えた結果、「偽善」という言葉でした。ボランティアをやる上で一番大切なのはどういう気持ちでやるかだと思っていました。今までボランティアをやってきた人達に質問してみましたが、確信を得る答は返ってきませんでした。

そんな時友人から今回の誘いがあり、私は答が出るのではと思いい、参加させていただきます。

二回の勉強会に参加するに当たり、ガダルカナルの戦いを調べました。そこには全く知らない現実がありました。戦死者3万人中、半分が餓死。ガ島が餓死の島、「餓島」と呼ばれていたこと。これを前にして凄惨な場所に行くのだと実感した。

ガダルカナル島に着き、最初の慰霊碑を目の前にした。僧侶である渡部さんがお経を唱え、お焼香をあげ、合掌し、並んでいるときに、今私は何を思えばいいのだろうと思ってしまった。「お国のため、日本を平和にしてくれ、だから今がある。ありがとうござ

います」と心の中で祈ったが、何だかこの所作が自分の真心ではなく、形式的な言葉のように感じてしまい、実感が中々湧いてきませんでした。

その後、我々学生の部屋に全国ソロモン会の菊本さんがいらつしやって話をしてくれました。そこで菊本さんのソロモン諸島に対する意思を「これからの世代に繋いでいかなければならない。遺族の方、戦争体験者の意思を決して消してはならない」と感じました。戦死者に対する思いは遺族の方が遙かに深い、実際に戦争を体験してない私達の世代に「思う」ということには限界がある。

私はここでやっと気づくことができました。思うことももちろん大事ですが、私達は「意思を継ぐ」決意をしなくてはいけない。意思を継ぐとは忘れないこと、後世に伝えていくこと。これからはこれを肝に銘じて活動していきたい。

慰霊碑を清掃して二つ気づかされたことがある。一つは、慰霊碑を磨いている時に、自分の祖先のお墓を何年も清掃に行っていないと気づき恥ずかしくなったこと。自分が今いるという事は、祖先がいたからである。この慰霊碑清掃で、自分のルーツ、原点を見直す契機になったと思う。

もう一つは、清掃中いつも現地の子

供達が集まってきた、何も言わずに手伝ってくれ、彼らの協力のお陰で清掃活動がスムーズになったと言っても過言ではなかった。最初は手で手伝ってくれるのか不思議に思っていたが、どこに行っても手伝ってくれる。単純に嬉しかった。ガダルカナルの戦いが始まる前に現地人が飛行場建設を手伝ってくれた時と同じように、慰霊碑清掃を手伝ってくれただろうことに、何か因縁めいた感慨をもちたことだ。

私は、ガダルカナルの遺骨収集には非参加したいと思っています。遺骨収集はまだ、慰霊清掃とは違うと思います。しかし、今派遣で感じたことを、誓ったことを、遺骨収集で活かされたいと思います。

最後になりましたが、初派遣で、右も左も分からない私をご指導していただいた団員の皆様、今派遣を支援してくださった皆様、ガダルカナルと一緒に清掃を手伝ってくれた現地の住民の皆様、本当に有り難うございました。

先人達の軌跡を語り継ぐ

ガダルカナル島慰霊清掃奉仕団

明治大学四年 谷崎 龍三

大東亜戦争中、日本軍とアメリカ軍

が飛行場を巡り死闘を繰り広げたソロモン諸島・ガダルカナル島。食糧の補給も儘ならないまま、飢餓と疫病に苦しみ、多くの死者を出した「餓島」に於て、日本人慰靈碑の清掃を行う為、私は慰靈清掃奉仕団の一員として、この派遣に参加した。

首都ホニアラの空港に降り立ち街を眺めると、非常に活気に溢れた平和な風景が広がっており、先の大戦の激戦地であったということを微塵も感じさせない。しかし、島に散在する慰靈碑、

また、米軍の作ったトラップ・戦闘機といった、戦後六十数年を経て今なお残されている戦跡の前に立つと、紛れもなくこの地で過酷な戦いが行われていたのだと否応なしに認識させられ、僅かではあるが、先人達の経験した過酷さを感じることが出来た。

慰靈碑を前にして驚いたことは、保存状態の劣悪さである。塗装は剥がれ落ち、金属プレートは外れかかっており、至る所に落書きがされていた。おそらく何年も手が付けられていないのだろう。アメリカが建立した慰靈碑も見学したが、警備も行き届いており、非常に保存状態が良く、まさに国を挙げて慰靈をしているという印象だった。

私はこの光景を見た時、日本人慰靈

碑の状態は、現代の日本の状況を体現しているように感じた。

我が国は敗戦後、GHQによって戦前の全てを否定されることから出発した。公の精神を教えることは軍国主義復活の危険な思想だとして、個の尊厳ばかりが強調され続けた。占領軍によって与えられた「民主主義」と「平和憲法」のもと、荒廃した状況から奇跡的な経済復興を遂げた事実は、戦後の歩みに間違いは無かったと私達に錯覚を与えた。

その結果、自分さえよければ良い、他人の事は顧みないといった、行き過ぎた個人主義が横溢し、公の為、即ち祖国に殉じた先人達の歴史を学ぶ必要などないといった状況になってしまったのではないだろうか。

しかし、我々が日々この平和を享受しているのは、祖国の為に戦った多くの先人達の犠牲の上に存している。もしも、彼らが「個」ばかりを優先し、公に尽くす心を持っていなかったら、とうに欧米列強に侵略されており、私がこの世に生を受けることもなかったかもしれない。公の精神を持つことは非常に重要なのだ。

近年、学級崩壊や、凶悪犯罪の多発など、戦後教育の歪みが露呈されてきているが、この儘では手遅れになるの

ではないかと危惧している。今回の派遣を通じ、慰靈清掃と並行して、先人達の歩んだ歴史を語り継ぐことが重要だと実感した。そして今後、戦争を経験した方々が益々減少していく中で、私達JYMAが、戦争を知らない若者の代表としてイニシアチブをとっていかねばならないと決意を新たにしたい。

【第二五二次東部ニューギニア派遣報告】

ニューギニアレポート

政府主催第二五二次東部ニューギニア遣骨収集派遣隊
神戸外国語大学四年 高木 悠太

この十一月、初めて体験する遣骨収集派遣で東部ニューギニアを訪れた。本事業が行われているのは今年の六月に知ったばかりであった。私は元々旅が好きで、大学の長期休暇の度に世界中を飛び回っていた。そんな折に、ポピュラーな旅行先ではないバプア・ニューギニアに足を踏み出すことに惹かれ、この事業に参加させていただいた。しかし、派遣日程が進むにつれ、その浅慮を恥じることになった。

きた今では、一柱でも多くの御遣骨が祖国日本へ戻ることを願うばかりである。この派遣事業の途中、他の方々に御迷惑をおかけしたことも多々あった。しかし時には派遣団の方々に、時には現地の方々に助けていただいた。今回、普段生活している上でも、そして海外を旅している上でも経験することのできない、素晴らしい体験をするに至った。

私はこれまで海外で、孤児院や身体障害者用施設等で働き、現地の人々と衣食住を共にしてきたが、今回は遣骨収集という、自分にとって初めての経験であり、日々発見や驚きの連続であった。

ニューギニアは赤道に近く、国土のほとんどが熱帯性気候でモンスーンの影響下にあり、年中高温多湿となっている。私達が収集を通った道は、かつて経験したことがないほど険しく、移動するだけで疲労が溜まっていった。だがその疲労も、かつての兵士の労苦を考えると休養などしている暇は無い。戦友の方から、日中は四十度に迫る高温の中で泥水を飲みながら、時には食糧も尽き、ひたすら行軍していた、と聞いた。それだけにとどまらず、風土病やマラリアの病魔に襲われ、生きることすら危うく、必死であった。現在

の我が日本においては想像もつかないような状況がそこにはあったのだ。

現地の方々と接していると、ふとアフリカにいた頃を思い出した。人々は陽気で、親しみやすく、とにかく温かい。「親日的」であると言われているが、私には「親人的」の方が当て嵌まる気がした。接すれば接する程、現地の人の生活に溶け込めば溶け込む程、かつて戦争に巻き込まれた国だとは感じさせられない。

実際に各地を回って収集をして、私と同じぐらいか、私よりも年の若い青年の骨が出てくるのがよくあった。私と同じような年齢で命果てた青年と自分とを比べずにはいられなかった。自分は、自分の人生を振り返り、自分がここにいる理由を考え抜き、行き着いた先が「両親が生んでくれたから」であった。

今回の経験で、自分を生んでくれたことへの感謝の意を幸いにも、帰国後に口頭で直接両親に伝えられた。僻地へ赴き、独りになるとふと考えることがある。戦地へ赴いた兵士達も同じように考えたのではないだろうか。そんな時に、遺書という形でしか両親に気持ちを伝えられない兵士達は、一体どれほど悔しかったことだろう。

ほんの六十年程前に戦争があった。

果たして六十年後に戦争がないと言えるであろうか。それほど時代や人の心の流れは移ろいやすい。

しかし、今回この事業に参加させていただき、自分の中に一つの答えが出た。戦争を経験せず、戦争に対して知識の少ない若者が何のためにこの事業に参加し続けるのか。それは現実起こったことを自分の体で感じ自分の頭で考え、それを後世に「伝える」ことこそが必要だからである。

戦争へは行っていないが、かつて戦地へ赴いた戦友の方々にお話を伺った。そのお話は非常に生々しく、いかに戦争が悲惨なものであったかを学んだ。いざれ戦争に関わった人々はいなくなってしまう。そこで、可能な限り自分のできることをしていこうと思う。

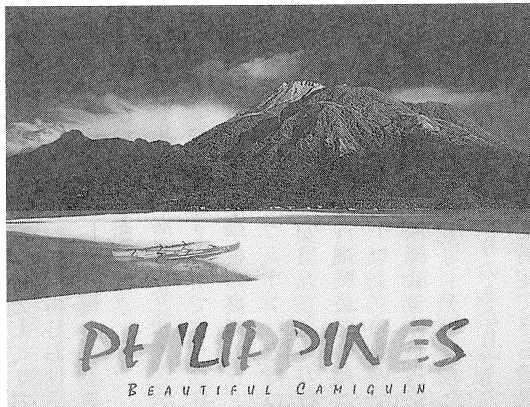
そのために私は教師という職業を選んだ。そして今回、幸運にも御遺族の中に教育に携わっている方が多数いらっしゃった。毎晩毎晩、教育に関する有り難いお話を拝聴し、本当に有意義な勉強をさせていただいた。

末筆ながら、御指導いただいた厚労相、戦友会、遺族会の方々、そのほか私を支えてくれた多くの方々に感謝の言葉を申し上げます。有り難うございました。

フィリピンからの便り

(絵葉書)

政府主催第二五四次フィリピン遺骨
収集派遣・JYMA派遣隊員
社会人 小林亮太郎
国士舘大学四年 安齋 慶
靖国神社神官 常泉 雅宣



だが、御遺骨の受領、収集は順調に進んでおります。1柱でも多く御遺骨をお迎えできるように、隊員一同力を尽くして参ります。

今後とも御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い致します。 敬具

JYMA (旧日本青年遺骨収集集団)
フィリピン遺骨収集派遣隊
小林亮太郎・安齋 慶
常泉 雅宣

(財)大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議会 御中

東部ニューギニアからの便り

(絵葉書)

政府主催第二五二次東部ニューギニア遺骨収集・JYMA派遣隊員
磯部 大・安齋 慶
高木 悠太・高橋 雅樹

拝啓 私たちJYMA4名は、11月10日から18日間の東部ニューギニア戦没者遺骨収集派遣に参加致しました。

日本遺族会による海外未送還遺骨情報収集によって約60の集落から情報が得られていました。その情報に基づき険しい道のりを越えて、11月21日迄に108柱の御遺骨をお迎えすることができました。

この活動を継続・発展させられるよ

拝啓 私たちJYMA3名は、1月20日〜25日の6日間、フィリピン戦没者遺骨収集派遣に参加させていただいております。

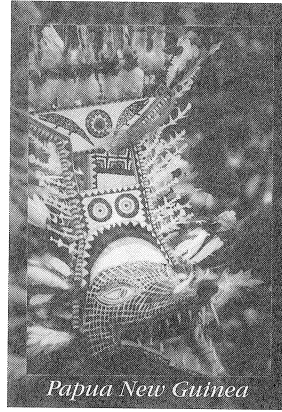
1班はセブ島、ボホール島に、2班はルソン島にと分かれて派遣されました。

う、今後とも御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い致します。 敬 具

JYMA第252次東部ニューギニア派遣隊(旧日本青年遺骨収集団)

磯部 大・安齋 慶
高木 悠太・高橋 雅樹

(財)大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議会 御中



Papua New Guinea

沖縄からの便り

JYMA主催第二五五次沖縄遺骨収集派遣隊員一同(学生23名社会人4名計27名)

謹啓 春寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃からジェイワイエムエイを温かく見守っていただき、誠にありがとうございます。

この度平成21年2月2日から2月10日までの9日間、沖縄県において、学生23名社会人4名の計27名で遺骨収集を



JYMA沖縄派遣隊員・荒崎海岸にて

行いました。今派遣隊は、初参加の学生が多く、遺骨収集を通して「戦争」というものを肌で感じる事ができました。

今回作業を行った場所は、旧海軍司令部壕付近、真嘉比壕付近、荒崎海岸と様々な地で互いに助け合いながら、19柱をお迎えすることができました。これもひとえに、皆様の温かいお力添えのおかげだと思います。

最後になりますが、お体にはお気を付けて、ご自愛くださいませ。謹 白

第二五五次沖縄遺骨収集派遣隊一同
(財)大東亜戦争全戦没者
慰霊団体協議会 御中

沖縄自主派遣・事前調査報告

JYMA沖縄遺骨収集派遣隊長
拓殖大学三年 森 啓太

沖縄自主派遣の事前調査として1月9～10日に沖縄に行つて、当日お世話になる方々にお会いし、日程や収集地の調整をしてみました。

今回の収集地は、海軍司令部壕付近、真嘉比小学校付近の2カ所です。真嘉比小学校付近は、小学校の裏側の丘、かつて米軍に「ハーブムーン」と呼ばれた丘です。そこは安里五二高地の戦

闘、かつて米軍に「沖縄戦最悪の地」と言わしめたシユガロープの戦いが行われた一帯です。沖縄戦全体から見ると、昭和20年5月中旬～下旬のあたりの戦闘で、中盤終わりのあたりです。ですから、まだ個人を特定できる遺品が多く、昨年6月22日に行つた遺骨収集(「遺烈」百号参照)以降、記名された遺品が遺骨と共に数多く発見され、その御遺骨は遺族の元へ還ろうとして

いると聞き及んでいます。今、この丘は、再開発により削り取られようとしています。おもしろまち駅南の丁字路が十字路に開発されること

によって、道路となつてしまうそう

す。しかし、戦闘経過から考え、この丘には、まだ御遺骨が多数残っているはず。しかも、前述のように、この御遺骨は、個人の特定も比較的容易であり、御遺族の元に還る可能性がとても高いのです。

その開発は、本年4月から始まるうとしており、もう時間がありません。御遺骨が土砂と一緒に大型重機で切り崩され、産廃として排土されようとしているのです。せめて遺骨の所在確認が終わるまで工事は待つてもらえないものかと悔やまれます。

この調査結果を踏まえ、我々は今回、2月2日～10日の9日間の日程で、近年になく大規模の23名の学生と数名の社会人が収集に当たります。ざりとて、広範囲な地域故、一所懸命搜索しても、この期間で全てを終わらせることは難しいと思います。

今はただ、事態が好転し、作業が円滑に捗るよう祈るのみです。それでも我々は全力で、出来る限り力を尽くしたいと思ひます。

事務局からの報告

○参加団体連絡調整会議の開催

当協議会では、首都圏所在の正会員団体による連絡調整会議を年2回開催していますが、1月20日、平成20年度第2回会議を開催し、慰霊事業の今後について熱心な討議をいただきました。

(開催場所)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑会議室

(会議出席団体)

海原会、英霊にこたえる会、神奈川県偕行会、興亜観音を守る会、埼玉偕行会、全ビルマ会、太平洋戦争戦没者慰霊協会、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会、東京都郷友会、東京ヤゴタ会、特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会、予科練雄飛会、陸士第五十七期同期生会、JYMA

(主要協議事項)

① 「戦没者慰霊事業」の、我が国の法体系の中での明確な位置付けを求める、内閣官房長官に対する要望について

本要望活動(会報「慰霊」第12号所載)の発端、経緯、要望の要旨と理由について、事務局より説明。長年、戦没者の慰霊顕彰に携わってこられた参加者からは、戦没者慰霊が等閑視され

ている現況に怒りの声が続出し、各団体挙つての共闘も辞さずとの意見も出て、今後の協力が合意されました。

② 「準正会員団体」の設置と管理について

解散を余儀なくされた団体を、希望があれば、引き続き「準正会員団体」として当協議会との関係を維持していただく案を事務局から説明。各団体の了承を得ました。

③ 「慰霊事業安定化資金」設定の構想について

寄付金等をプールして資金を積み立て、慰霊事業諸団体の戦没者慰霊顕彰事業を助成する「資金」設定の構想を事務局から説明。金額、運用時期等については、色々と意見も出ましたが、設定構想の大筋は、各団体の了承をいただきました。

④ 平成21年度協議会事業計画の作成について

新年度事業計画作成の考え方を事務局から説明。その後の自由懇談においては、各団体から活動の現況等について発表があり、話題は長年にわたり戦没者慰霊顕彰が等閑視されてきた国民教育に及び、私費で「靖國カレンダー」を配り歩く国民啓蒙の草の根活動などが披露され、一同、意識を新たにさせられました。

平成21年度大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭開催のお知らせ

当協議会は、参加諸団体と共に、平成21年度の「大東亜戦争全戦没者合同慰霊祭」を、平成21年7月4日(土)靖國神社において、左記のとおり、執行行う予定であります。

記

昇殿参拝 12時～ 神社本殿
直 会 13時30分～ 靖國會館

会員の皆様には、5月頃御案内を差し上げる予定ですが、お誘い合わせの上、御参加下さいませよう、あらかじめ御予定の程、よろしくお願い申し上げます。

(参考)

参加費用

玉串料 二〇〇〇円

直会参加料(参加者のみ) 五〇〇〇円

新入会員及び寄付者(敬称略)

(平成20年12月1日～平成21年2月28日)

【正会員】

宮崎県偕行会 (会長 川野 周平)
姫路偕行会 (会長 小林 繁)
福井県偕行会 (会長 浅野 一行)

鹿児島偕行会 (会長 矢崎 晃)
筑後地区偕行会 (会長 首藤 愛明)
【賛助会員】 (あいいうえお順)
竹本 佳 徳 橋本 亀

【寄付者】 (あいいうえお順)
伊奈 作一郎 稲垣 実
加柴 保 駒場 剛太郎
山本 健 雄

当協議会会員ご入会のご案内

当協議会におきましては、慰霊事業の永続をはかるため、なるべく多くの方々の会員ご加入をお待ちしております。

皆様のご協力をお願い致します。会員の区分と年会費は次のとおりです。

- 一 賛助会員 (本会の趣旨に賛同する個人) 年会費 三〇〇〇円
- 二 賛助特別会員 (特別ご芳志の賛助会員) 年会費 五〇〇〇円
- 三 正会員 (本会の趣旨に賛同する慰霊目的の法人・団体) 年会費 一〇〇〇〇円
- 四 特別会員 (本会の趣旨に賛同する法人・団体) 年会費 五〇〇〇円

協議会参加各団体の本年度慰霊行事予定(情報入手分のみ)

| 年月日 | 時間 | 慰霊行事名 | 場所 |
|----------|-------------------|---|-----------------------------------|
| 21・7・4 | 祭典12時 直会13時30分 | (財)大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会 平成21年度大東亜戦争 全戦没者合同慰霊祭 | 靖国神社 靖国会館 |
| 21・10・3 | 10時30分 | (財)海原会 第42回予科練戦没者 慰霊祭 | 陸自武蔵野校内・ 雄翔園二人像前 |
| 21・4・5 | 15時～16時 | 英霊にこたえる会 第25回靖国神社の桜の花の 下で「同期の桜」を歌う会 | 靖国神社大村益 次郎像前 |
| 21・8・8 | 10時～10時 | 第34回全国戦没者慰霊大祭 | 靖国神社 |
| 21・8・15 | 10時30分～12時15分 | 第23回戦没者追悼中央国民 集会(共催・日本会議) | 靖国神社境内 |
| 21・4・5 | | 神奈川県借行会 英霊にこたえる会 観桜慰霊祭 | 県立慰霊堂 県立慰霊堂 県立慰霊堂 |
| 21・5・5 | | 近畿借行会 昭和殉難法務死者追悼 年次法要 | 高野山奥の院 |
| 21・8・29 | 11時30分～12時30分 | 大東亜戦争戦没者・昭和 殉難法務死者慰霊式並び にパール博士顕彰式 | 京都護国神社 |
| 21・11・中旬 | 14時～15時 | 興亜観音を守る会 興亜観音例祭・興亜観音 を守る会定期総会 | 熱海市伊豆山 興亜観音他 |
| 21・5・18 | 12時～17時 | 興亜観音を守る会創立満 15周年懇親会 | 九段会館 |
| 21・11・15 | 14時～16時 | 殉国七烈士法要慰霊祭 | 興亜観音 |
| 21・12・23 | 13時～14時 | 靖国神社昇殿参拝 | 靖国神社 |
| 21・10・初旬 | 13時～14時 | 靖国神社昇殿参拝 | 靖国神社 |
| 22・3・中旬 | 13時～14時30分 | 靖国護国神社昇殿参拝 | 靖国護国神社 |
| 21・11・3 | 13時 | 全国海洋戦没者伊良湖岬 慰霊碑追悼式 | 伊良湖岬慰霊 碑前 |
| 21・11・3 | 13時 | 全国海洋戦没者伊良湖岬 慰霊碑追悼式 | 伊良湖岬慰霊 碑前 |
| 21・2・14 | 9時～10時 | 全ビルマ会 第22次ビルマ戦跡慰霊 巡拝団合同慰霊祭 | ミャンマー・ ヤンゴン北オカ ラッパ日本人 墓地 |
| 21・11・3 | 10時30分～12時 | 第51回ビルマ方面戦没者 慰霊祭 | 靖国神社 |

| 年月日 | 時間 | 慰霊行事名 | 場所 |
|----------|---------------|---|-----------------------------|
| 21・8・29 | 13時 | (財)太平洋戦争戦没者慰霊協会 シベリア戦没者・年次 定例拝礼式 | ハバロフスク市・ シベリア平和 慰霊公苑内 |
| 21・5・8 | 10時30分～12時 | 筑後地区借行会 久留米市戦没者慰霊祭 | 久留米市忠霊塔 |
| 21・8・22 | 11時～12時 | 戦没者慰霊平和祈念祭 | 久留米市忠霊塔 |
| 21・8・22 | 11時30分～12時 | 爆弾三勇士慰霊祭 | 山川招魂社境内 |
| 21・5・下旬 | 12時頃～13時30分頃 | (財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 拜礼式 | 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 |
| 21・9・10 | 12時30分～13時30分 | 21年度秋季慰霊祭 | 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 |
| 21・9・22 | 3時頃まで | 遺骨引き渡し式 | 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 |
| 21・11・3 | 12時30分～13時30分 | 東京ヤゴダ会 シベリア鎮魂慰霊祭 | 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 |
| 21・5・10 | 14時～15時 | 特攻殉国の碑保存会 平成21年度第43回特攻 殉国者慰霊祭 | 長崎県川棚町新 谷郷・特攻殉国 の碑前庭 |
| 21・3・30 | 12時～16時 | (財)特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会 第30回特攻隊戦没者 合同慰霊祭 | 靖国神社 |
| 21・9・23 | 14時～16時 | 第58回特攻平和観音 年次法要 | 世田谷山観音寺 |
| 22・3・下旬 | 12時～16時 | 第31回特攻隊戦没者 合同慰霊祭 | 靖国神社 |
| 21・4・20 | 13時～16時 | (社)日本郷友連盟東京都郷友会 武蔵野御陵参拝及び 多摩森林科学園見学 | 武蔵野御陵及び 多摩森林科学園 |
| 21・4・5 | 10時～12時 | 宮崎特攻基地慰霊祭 | 宮崎空港近くの 慰霊碑前 |
| 21・4・6 | 10時～12時 | 平成21年度都城市特別 攻撃隊戦没者慰霊祭 | 都島公園(旧陸 軍墓地内) |
| 21・11・23 | 10時～12時 | 川南護国神社秋季大祭 | 川南護国神社 |
| 21・4・6 | 12時 | 予科練雄飛会戦没者慰霊祭 | 靖国神社 |
| 21・5・17 | 11時～12時 | 陸士五十七期同期生会 慰霊祭 | 靖国神社 |
| 21・11・8 | 14時～15時 | 善福寺法要 | 杉並区・善福寺 |